

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272500511		
法人名	特定非営利活動法人 さわか福社の会 流山ユー・アイネット		
事業所名	グループホーム「わたしの家」		
所在地	千葉県流山市西深井176-1		
自己評価作成日	平成24年1月30日	評価結果市町村受理日	平成24年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	平成24年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員の年齢層も幅が広く、また職員の子供が身近に居ることにより様々な世代の人々が、一緒に生活している。利用者も楽しく安心して暮らし、アットホームな雰囲気である。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>家族の来訪が頻繁であり、それに合わせ管理者は多くの家族と懇談の機会を設けている。また、家族会も開催されており、そこで出された意見は運営やケアサービスに反映されている。昨年のホーム旅行は、家族会の要望で東京タワー見学と決まり、みんなが観光を楽しんだ。地域との交流も活発であり、夏祭りなどホームの行事には住民の参加があるほか、学童保育の子供たちとの交流もある。また、メイクアップボランティアの来訪は入居者に喜ばれている。このように家族と地域とホームが入居者の穏やかな暮らしを支えている家庭的な事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのかかわりを大切にし、理念はみんなで共有できるように、理念についての研修を行っている。「安心」「信頼」「尊厳」が共有モットー。	管理者は開設当初の理念を分かりやすく簡潔なものに作り替え、玄関、リビング、事務室に掲示している。職員はその理念の持つ意味を各々掘り下げケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶や会話等。 食事会や子供会、自治会または生き生き体操等。 地区活動に参加している。	入居者は自治会の敬老会や社協が主催する「健康生き生きづくり」などに参加し、地域との交流を深めている。また、ゴミゼロ運動に入居者、職員が参加するなど地域の一員としても活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、そのような機会がなかった。震災を踏まえ、防災に対しては認知症が故の状況を理解してもらうように、運営推進会議等で話し合った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価、外部評価とも公表し、話し合いの中から意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。特に震災に対する避難時の話し合いが充実した。	運営推進会議は地区社協会長、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員、市役所担当課、家族、利用者など多様な参加者で行われている。前回の会議では災害対策などで活発な意見交換が行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会における、市町村の参加。交流等、様々な事柄において密に連絡を取り合っている。	地域包括支援センター職員や市の担当者からは運営推進会議で意見をもらっている。また、毎月介護相談員も受け入れている。とくに市の担当者とは、訪問や電話で、ホームの実情などを相談し、連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いっさいの拘束を禁じ、開設以来、いかなる拘束も行っていない。職員にも具体的行為を周知徹底している。	管理者は日頃から身体拘束をしないケアについて職員に話している。また、家族にも身体拘束の弊害について説明をしている。全ての身体拘束を禁じているため、外出願望の強い入居者に対しても一緒に外出して、見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所において、いかなる虐待をも見過ごさないよう、最善の注意を払っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は完全なる成年後見人制度を活用している、利用者が入居し実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な時間をとり説明を行っている。不安や疑問点に対する説明も充分行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会をもうけており、その中でホームの運営に関して話しており、家族の意見や要望を反映するようにしている。	家族会では家族のみで話し合う時間をとり、意見や要望をもらっている。秋のホーム旅行は家族の意見で行き先が決定した。また、家族の来所時には、入居者の状況を説明すると同時に意見を聴く機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング等において職員の意見や提案を聞き反映している。	会議で職員の意見を聴く機会を設けているほか、日頃のケアのなかで出た提案や意見などは、リーダー職員が管理者に伝え運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績等把握し、向上心を持って、働けるよういろいろな面で、やりがいが持てるように努力しているがなかなか職員が、満足できる要望までには至っていないのが現状である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ、外部研修に行く機会を与えたり、内部研修等も行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会にて、相互訪問を行っていて、ネットワーク作りは出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接により本人の情報を職員全員で共有する事と、入所直後は極力本人と過ごせるようにして、安心・信頼づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接で、どのような経緯で現在に至ったのか?など、出来る限り家族の立場で共感するようにしている。又、こまめに報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族が最も入居にあたって心配、不安な事を聞き出し混乱に敏感に対応できるように、行動表情を観察している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を重視しているため、時には一緒にお茶を飲みながら、TVを一緒に見て談笑したりしている。また自分で出来る事は一緒に行うように支援している。(掃除、洗濯、料理等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでは、ケアに関しても、家族と一緒に考え、一方的なケアにならないように、できる時は家族にもケアをしてもらっている(入浴・トイレ等)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の記憶にある、馴染みの人、場所は情報を得た中で、会話の中にとりいれるようにしているが、実際にその場所やひとに会うのは家族に話すのみである。	知人が訪ねて来ることは少なくなっているが、電話の取り次ぎや年賀状などで関係継続の支援をしている。散歩がてら近くにあるお墓に歩いて行く入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、個人個人の性格や相性を考えて、座席や何かと関わられるように、常に職員同士気をくばっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	毎年夏の夕涼み会にOB家族を招待したり、年に一度、職員との親睦会を開催している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の気持ちを汲み取るように、話を聞くように努力している。職員間でそのような本人の気持ちを話し合う事が多い。	日常の会話や表情・行動などから希望や意向を把握している。家族の来訪も多いので、そこからの情報も収集し、入居者本人の視点に立って考えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報等をセンター方式を利用し、職員全体で、その人の人生を把握している。入居後は本人からの話をつけ加えていくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で、個々の生活の仕方を把握している。こまめに個人を観察し、表情や行動でケアの方法も変えながら、日々ケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアについては、面会時などに、家族に対しては、随時・報告・面談を行い、意向を聞き入れ活かしている。必要に応じてDrやNsからも意見をもらいケアプランをたてている。モニタリングも月一回行っている。	入居者・家族の意見以外にも、医療や福祉用具の専門家などの助言を参考にして介護計画を作成している。月1度のモニタリング以外にも臨時のミーティングを行うなど、チームで取り組む体制が整っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に本人と職員の言葉のやりとりを記載し、情報の共有をしやすくしている。ケース記録のタイトル欄を見直し、チェックし、介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティア・訪問歯科等や、必要ニーズに応じて有償ボランティアを活用し協力体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ではスーパーに出かけたり、小学生や園児と時々交流したり、老人会行事への参加。又、外出、外食をこころがけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族了解のもと協力医に受診している。適切な医療が受けられるように、受診前に担当事務員に連絡し、情報提供を事前に行っている。	家族の了解を得てホーム協力医に受診しており、家族への報告も定期的に行われている。また、随時の受診の際にも家族へ電話で報告するなど、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2・3回の訪問看護訪問日に個人個人の変化や聞きたい事を、どんな細かな事でも相談し、24時間指示を受けられる関係になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はサマリーでやりとりしているが、個人情報保護により、入院中の情報はHPからもらえない為、訪看Ns等に協力してもらいながら相談したり家族を含めて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、(特に重度化になりつつある利用者) 家族に対しては、個々に終末期に対する家族の意向を尋ねている。その際には、ホームで何が出来るかも、きちんと説明している。	ホームは入居者にとって「ここが家庭」という気持ちで、終末期も関わるという姿勢がある。しかし、そのためには家族の協力が不可欠であるため、十分な説明と話し合いを持ち、方針を共有することになっている。かつてホームでターミナルケアをした際は、入居者の子ども、孫達や全職員、全入居者で見送った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議等で定期的に救急対応の確認をしたり、様々起きる事故や急変時の初期対応を訪看も含め定期的又は随時再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は年2回火災訓練の他に突発の屋訓練・夜訓練も行い、全員が対応できるよう努力している。又、近所や消防団にも協力依頼済みだが、合同での実施はされていない。	実際に入居者の行動を確認するために、夜間帯に避難訓練を行ったり、近隣の協力体制を整えるなど、実践的な取り組みに力を入れている。しかし、昨年目標達成計画にあった「マニュアルの作成」が未完成のままである。	さまざまな災害でも確実な避難誘導ができるようにマニュアルを作成し、それに添い訓練を行うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけやケアに関しても、ひとりひとりの個性を大切にしながら、声掛けには充分気を使いながら行うようにしている。	職員が勝手に部屋に入らない、本人の言われたくない内容は把握しておくなど、常に入居者の気持ちに配慮した取組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のささいな会話の中から、希望や思いを拾い出すように努力している。色々な事に対しても自己決定できる環境や声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて生活してもらっている。その中に時折声かけし外出したり、お茶したり、手伝いが出来る環境を工夫しながら取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等は、その人の好みを知り、その人らしい服装が出来るように声かけ等をしている。(重ね着をしている時など)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備も自然と一緒にできる様に工夫している。(声かけ・環境) 食事も談笑ができる様に席を決めている。	メニュー決め、買い出し、家計簿付け、調理、後片付けなど、多くの入居者が役割を担いながら関わっている。全職員と一緒に席に着き、食事の感想などで会話がはずんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の好みや身体・歯の状態に応じて、ひとりひとりに対応している。水分も極力とれるように気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人には声掛けをして行い、嚥下障害のある人は、特に注意して口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを24時間チェックしているので、それに応じて、出来るだけ失禁なく、トイレで排泄できるように誘導している。	24時間の排泄チェックにより、入居者一人ひとりのパターンをつかんでいる。声かけのタイミングをはかることで、トイレでの排泄につなげるなど、自立に向けて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの人に対しては、ヤクルトや野菜ジュース等を利用したり、散歩したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日、その時の利用者の気分に応じて入浴は決めている。気分がのらない時は無理に入れないようにしている。	気乗りしない入居者には無理強いせず、本人の根底にある気持ちを大切に対応している。ホームのユニットバスで入浴が困難になった場合も、入浴方法を業者と共に検討し、家族の協力を得ながら、入浴を継続できるよう努力をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休息は、一人ひとりの状態を把握しながら、随時声掛けし、ソファや居室に誘導している。特に夜間は入眠前の安心した声掛けに重点を置いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどのような薬を服用しているのかは、各々把握するように周知している。また、薬を変更した時などは、よく観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や習慣を活かした役割を促すように心がけている。気分転換時も好みを活かせるように努力している。(歌、散歩、台所、洗濯、掃除等が好きな人など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩等は、その人の気分に応じてその都度行けるようにしている。普段行けない場所などは、家族中心に支援を依頼している。	散歩や買い物は後ろから職員がついていくなどして、自由に出かけてもらっている。外出したいという気持ちを押しやまないことを大事にしている。ホームやユニット単位で外出したり、家族も参加できる日帰りツアーも毎年実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望により、お小遣い程度を所持している人もいる。時々買い物等で使用しているが、年々認知症の進行とともに、使えなくなる人が増えてきた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日・贈り物等何かあった時の御礼電話を本人によって行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を置いたり、季節を感じる物を装飾したり工夫している。	自宅の延長としてこのホームがある、ということを大切にしている。雛人形が飾られ、テレビの音やBGM、子供の声、食事を用意する匂いや音など、日常がそのまま持ち込まれている。直接関わらなくても、目にしたり耳にしたりして、季節を感じてもらえる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子等は数か所に設置しており、各利用者一人だったり、二人で談話していたり活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のセッティングに関しては、必ず家族と相談しながら行い、その人の認知症状、行動を想定しながら工夫している。	各居室には大きな物入れがあり、部屋はすっきりとしている。家族の写真、自分の作品や似顔絵、位牌、テレビなど、思い思いの品や家具を持ち込んでおり、それぞれ違った趣の自分だけの空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	様々な事柄も自分でできる様に、チョットした声掛けを行ったり、自分で出来るように環境を整えている。		